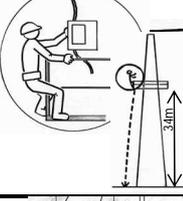
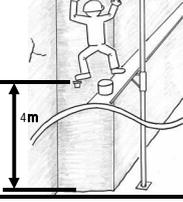
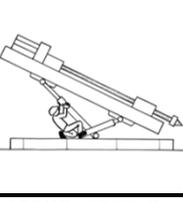


平成28年における死亡災害発生状況(建設業)

平成29年3月31日現在

番号	発生日	業種	性別	職種	年齢層	災害発生の概要 (概要の内容は、同種災害防止の見地等から編集を加えています。)	略図	事故の型	起因物
1	1月	その他の建築工事業	男性	塗装工	40代	塗料の飛散防止に係るビニール養生中、被災者がくさび式足場の根がらみ単管とソーラーパネルの鉄骨フレームに両足を掛けて作業をしていたところ、約10m下のアスファルト路面に墜落した。 同種災害を防止するための対策例 ・足場の外側において、養生や清掃等、墜落のおそれがある箇所で作業を行う際は、防網を設け、安全帯を使用すること。		建築物、構築物 墜落、転落	建築物、構築物
2	3月	その他の建築業	男性	作業員	60代	ビルの解体工事中、屋上のコンクリートガラ、鉄骨、鉄筋等の廃材を落とすために設けられた開口部からコンクリートガラの回収作業を行っていた被災者が約11m下に転落した。開口部の周囲には墜落防止のための手すり等は設けられていなかった。 同種災害を防止するための対策例 ・開口部付近で作業を行う場合は、囲いや手すり等を設け、墜落防止措置を行うこと。なお、囲い等が設けられない場合は、親綱を張り、安全帯を使用させること。		開口部 墜落、転落	開口部
3	4月	建築設備工事業	男性	作業員	20代	マンションの建設工事中において、10階壁の配筋作業中、鉄筋組立業者がクレーンを用いて廃材を地上まで下ろしていたところ、高さ約30mの位置で鉄筋(長さ45cm、直径35mm)がワイヤーモックから落下し、地上で内装設備の搬入作業を行っていた被災者の頭部に激突した。 同種災害を防止するための対策例 ・玉かけ用具は、運搬する荷の形状に合ったものを選択すること。 ・クレーンの旋回範囲内に、吊り荷等が接触するおそれのあるものを設置しないこと。		飛来、落下 クレーン	クレーン
4	4月	その他の建築工事業	男性	解体工	60代	2階鉄骨造りの単層倉庫の解体工事に、2階の床材、垂木の撤去作業を終え、被災者は根太を取り除くために根太とH鋼を固定しているアングル部の釘をハンマー、ボールを使用し抜き終わったところ、被災者は根太及びH鋼の開口部から約2.8m下の1階のコンクリート床面に墜落した。 同種災害を防止するための対策例 ・解体工事のように刻一刻と現場の状況が変化する現場においては、労働者の危険感受性を高めるための実効ある教育を行うこと。		開口部 根太、はり、合掌、モヤ、けた、等 墜落、転落	屋根、はり、モヤ、けた、等
5	6月	電気通信工事業	男性	作業員	40代	被災者は鉄塔の地上から高さ34mの位置にあるプラットフォームの外側で、新たなケーブルの設置作業を行っていたところ、地上に墜落した。墜落防止のため胴綱と移動ロープの2つを装着していたが、墜落時、胴綱は使用されておらず、移動ロープも使用していなかった。 同種災害を防止するための対策例 ・高所作業においては適切な安全帯を装着し、恒常的に墜落防止措置が講じられた状況で作業を行わせること。		墜落、転落	建築物、構築物
6	8月	その他の建築工事業	男性	塗装工	70代	被災者はホテルの外壁のクラックをモルタルで埋める作業を行っていた。建物に付いていた金具に、足をかけて作業していたところ、金具がはずれ、高さ約4mの高さから墜落した。 同種災害を防止するための対策例 ・建物の形状にあった適切な足場を設置すること。 ・足場の設置が困難な場合はほかの墜落防止措置を講じること。		墜落、転落	建築物、構築物
7	10月	トンネル建設工事業	男性	建設機械運転者	30代	ボーリング調査に使用していたボーリングマシンのシリンダー部から油漏れが発生したため、被災者が1人で修理を行っていたところ、チェックバルブを外したため油圧が下がり、ガイドセルが降下し、ベース架台との間に頭部と右肩部を挟まれた。 同種災害を防止するための対策例 ・作業を行う時は、原則機械の可動範囲内に労働者を立ち入らせないこと。また、可動範囲内に入る必要がある時は、適正な安全装置を使用する等の措置を講じること。		はさまれ、巻き込まれ	その他の建設機械等
8	12月	トンネル工事業	男性	作業員	30代	トンネル新設工事中において、坑口から約200mのトンネル先端の切羽部で鋼製アーチ支保工を設置する位置等の確認のため、発破後の切羽に近づいたところ、切羽上半の側面部から落石があり、その下敷きになった。 同種災害を防止するための対策例 ・切羽に近づく必要があるときは、崩壊防止措置を確実に講じた後に行うこと。		崩壊、倒壊	地山、岩石